

《履修上の留意事項》英語を共通言語とした研修になるので、英会話力の向上と英語の専門用語の修得に努めること。
実習に際して、歯科臨床のしっかりとした知識を身につけ臨むこと。

《担当者名》教授 / 斎藤 隆史 t-saito@ 教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 教授 / 古市 保志 furuichi@
教授 / 永易 裕樹 nagayasu@ 教授 / 長澤 敏行 nagasawa@ 教授 / 越野 寿 koshino@
准教授 / 佐藤 圭史 keiji_sato@

【概要】

海外における歯学部又は病院に中長期滞在し（2週間程度）、実習主体の臨床研修を受ける。歯科臨床の知識を深め技術を高めるのみならず、海外での生活の中で国際人としての素養を身につける。

【学修目標】

訪問地の歯科臨床の特徴について簡単に説明する。
訪問地の歯科医療従事者と簡単なコミュニケーションをとる。
国籍に関わらず、友好的に国際的な人間関係を築く。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

海外研修の発表会の内容により評価する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 人々のライフステージにおける疾患の予防、診断および治療を実践するための基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健、歯科医療技術を修得する。

DP2. 「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につける。

DP3. 疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につける。

DP4. 歯科医療の専門家として、地域的、国際的視野で活躍できる能力を身につける。

DP5. チーム医療（保健と医療と福祉）において協調し建設的に行動できる態度と能力を身につける。

【実務経験】

斎藤隆史（歯科医師・海外留学経験）、安彦善裕（歯科医師・海外留学経験）、古市保志（歯科医師・海外留学経験）、永易裕樹（歯科医師・海外留学経験）、長澤敏行（歯科医師・海外留学経験）、越野寿（歯科医師・海外留学経験）、佐藤圭史（語学教育・海外勤務経験）

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師および海外留学経験での実務経験を活かし、歯科治療の際の外国人患者への対応や、外国で歯科治療する際の患者対応の方法について、効果的な教育が期待できる。また、学生自ら外国の歯科医療に触れることにより、グローバルな視点から本邦の歯科医療を考察できることになる。